

平成22年 春 第23号

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

あかり

A K A R I

看護師さんを
募集しています

「けいれん」と「てんかん」	1
てんかん看護の院内認定看護師誕生	2
C1病棟「コミュニケーション畑」	3
災害医療研修「トリアージ」を行って	4
第25回てんかん専門職セミナー報告	4
療育指導室紹介 / 自己紹介	5
防災訓練について / 宿泊施設について / 久能山	6
てんかん外来再診の診療体制 / 医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ	8
当院へのアクセス / イベント情報 / 本	8

「けいれん」と「てんかん」

てんかんの診療では発作の様子を知ることが正しい診断と治療には欠かせません。しかし、発作そのものを診察室で観察できることはめったにありません。そこで、患者様が発作の始まりや発作中に自覚されている症状についてのお話と、発作を実際に目にしたご家族や周囲にいた方からの目撃情報がきわめて重要となります。これらは言葉による発作の再現、と言えるわけですが、言葉の使い方、受け取り方は人によって多少のずれがあります。今回は診察の場ではしばしば登場する「けいれん」という言葉を取り上げてみたいと思います。

「けいれん(痙攣)」は医学的には「筋肉の反復性あるいは持続的な収縮」を意味します。つまり外から見た場合、体の一部や全部に力が入って、ピクピクしたりガクガクする動きや、硬くつっぱっている姿勢をいいます。

てんかん発作でみられるけいれんには、間代性、強直性、強直間代性、などがあります。

ところが、患者様やご家族から発作の様子をお聞きしていると、「けいれん」として表現されるものが必ずしも「動き」や「姿勢」を意味していないことが珍しくありません。意識を失い動きが乏しくなる発作でも「けいれん」と表現されることもあります。また、そのような発作の最中にみられる細かい手の「ふるえ」や、手足を無意識に動かしている状態(自動症)を「けいれん」と表現されることもあります。さらには「てんかん」＝「けいれん」と解釈されている方もいらっしゃいますし、一方、「えー、てんかんなんですか？今まで、けいれんだと思っていました！」(ん?)という方もいらっしゃいます。通常「てんかん」は病名として、「けいれん」は症状名として使うのですが、「熱性けいれん」「顔面けいれん」という病名もあるく

らいですから、ややこしいのも無理ありません。お子さんの場合には「ひきつけ」という言葉もよく使われます。さらに、神経内科の領域でもいろいろな症状が「けいれん」で表現されています。こむら返りのような有痛性筋痙攣、お年寄りの手のふるえ、寝入りばなのびくつき、悪寒・身震い、なども「けいれん」と表現されることがあります。

このように一つの言葉の意味するものがさまざまであると誤解が生じ、患者様の症状を正しくイメージできないことがあります。患者様が「けいれん」として表現されている症状をできるだけ正確に把握しようとして根ほり葉ほりお聞きするかもしれませんが、とても大事なこと

ですので御協力をお願いいたします。

また最近では動画が撮れる携帯電話やデジカメも普及しています。発作のときは慌ててしまいますが、もしご家族に心の余裕があれば「けいれん」の様子を画像に記録してお持ち下さると大変役に立ちます。なんといっても「百聞は一見にしかず」ですから。

このように発作を実際に観察し記録することができれば、正確な診断と治療の方向性を決める際にとても役に立ちます。そのため当院では入院が可能な患者様では、できるだけ長時間ビデオ脳波同時記録で発作を記録するようにしています。

(医師 池田 仁)

てんかん看護の院内認定看護師誕生



平成20年より院内認定看護師の育成を始めました。各年度末に試験を受けて合格点に達した者だけが認定を受けることができます。この度2年間の研修期間を経て6名の合格者がでました。3月9日に病院長より研修の修了証と認定証が手渡されました。この6名は、4月より院内でてんかん看護の質の向上に貢献していくことになります。



てんかん看護院内認定看護師の紹介



患者様が退院後もより良い生活ができるようなチーム作りをして行きたいと思えます。よろしくお願いします。

A4 病棟 豊泉三枝子



てんかん看護について、深く考え学習する機会が得られ、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も学習を進め、スタッフ教育・研究に積極的に取り組みたいと考えます。

B1 病棟 三瓶 千里



てんかん看護について、まだまだ勉強不足な所があるので、自己研鑽し、学んだことを他のスタッフと共有できるように発信していきたい。

A6 病棟 田尻 浩



職員はもちろん、患者様やご家族に、てんかんを理解して頂き、よりよい治療・看護ができるように指導や活動をしていきたい。

C1 病棟 青柳 政彦



院内認定の名に恥じぬよう、てんかん看護の発展に邁進したいと考えております。よろしくお願いします。

B2 病棟 石原己緒光



てんかん診断の補助と患者様のQOLの改善及び向上に向けた看護ケアに努めていきます。

A3 病棟 阿尾 幸乃

C1病棟「コミュニケーション畑」

C1病棟 看護師 釧持 幸枝 保育士 高橋 輝

C1病棟にはみんなで作った“畑”があります。

「夏」トマトやオクラなどの花が咲き、そしてたくさんの実を付けてくれました。トマトやオクラの花をご覧になったことがありますか？とてもきれいで可愛い花が咲き、C1病棟を暖かい気持ちで包んでくれます。外気浴の時には一面に緑の葉っぱと黄色い花が見え、スタッフが「きれいだね」と言葉をかけると患者様の表情は、どこかやわらいで見えます。黄色い花と共に、りっぱなトマトとオクラが収穫出来ました。

「秋」畑には青々としたさつま芋の葉っぱが一面に広がり、風が吹くたび、「ザワザワザワ」・・・と葉っぱの音が聞こえてきます。葉っぱのすれる音がすると、患者様は「ニコッ」と目を合わせてきてくれます。収穫の日、コミュニケーション畑には「よいしょ！」の掛け声が響きます。みんなで力を合わせてツルを引っ張りまします。すると、大きなさつま芋がゴロゴロと顔を出しました。「やったー」と大きな歓声が湧き、みんなの笑顔を見ることができました。このさつま芋も苗から植えました。小さなかわいらしい苗で、散歩をしているA棟の患者様から「これ何の葉っぱ？」「本当にさつま芋が出来るの？」と声をかけられ、これをきっかけにA棟の患者様と野菜について話しをするようになりました。



C1病棟の患者様の中には、畑の水掛けが毎日の日課となっている方もいらっしゃいます。小さかった苗の葉っぱがだんだんと大きくなってくると、下にはどれだけ大きなさつま芋が付いているかと、芋掘りの日まで毎日楽しみに水をかけてくれました。芋掘りを

したさつま芋は、栄養科のご厚意で蒸かし芋とスイートポテトになり、とても美味しく食べることが出来ました。

「冬」には大根とブロッコリーの種を蒔き、玉ねぎの苗を植えました。大根の種は米粒より小さく、これで本当に大根が出来るのかと心配でした。患者様は一生懸命に



水を掛けてくれ、職員も肥料を蒔いたり、雑草をとったりしていると、それを見ている患者様から笑い声が聞こえてきました。冬の寒い時期でも畑には緑があり、ほのぼのとしています。



一生懸命育てた甲斐あって、見事に大きな大根に成長しました。収穫祭もやりました。大根にひもを巻き、そのひもを患者様は一生懸命引っ張りまします。「がんばれ～」の声援が飛ぶ中、大きな

大根がいくつも取れました。大根はフロフキ大根に変身し、患者様は大満足。スジがなく、とても軟らかくて、ほっくりしたフロフキ大根は患者様のお腹に入っていました。

自分たちが苗や種から大事に苦労しながら育て、成長の過程を知り、そして収穫が体験でき、それを食する。患者様にとっては貴重な体験になり、素晴らしいと感じました。畑で野菜の手入れをしていると、春・夏・秋・冬といった季節を肌で感じられます。その旬の野菜を見て楽しみ、食することが出来ます。作業をする職員を見て患者様の笑い声が聞こえてきます。

そして今年の「春」もC1病棟の畑には、植物が植えてあります。先日、うす紫色の可愛い花が咲き始めました。毎日、空に向かってぐんぐんと伸びています。C1病棟は、植物の成長を患者様と一緒に見守りながら、毎日楽しい日々を送って頂けるよう心がけています。そんな楽しいC1病棟の畑に、一度遊びに来てください。スタッフと患者様とがふれあいを持つことができる、コミュニケーションの畑が広がっています。

看護師さんを募集しています！

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り

②非常勤職員（外来、B型通園）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@szec.hosp.go.jp

災害医療研修「トリアージ」を行って

15年前に起こった阪神・淡路大震災では多くの人が命を落とし、災害時の早期の対応を考えさせられる機会となりました。その後各自治体でも災害時の取り組みが行われています。当院でも2月22日、23日の2日間、はじめて全職員を対象としたトリアージ研修を行い37名が参加者しました。前半はトリアージとはどのようなものであるかの講義を行い、後半は実際に患者



者役をする人とトリアージする人に分かれ、緑（治療保留群）、黄（治療待機群）、赤（最優先治療群）黒（無呼吸群）の判断を行いタグをつけていく作業をし

ました。事故現場における初期段階での治療優先度決定は、最大数の傷病者を救命することとなり、大切な作業です。また、トリアージタグは災害現場のカルテの代用となるものであり、一人の状態を30秒～1分で判定するのはかなり難しいことです。いつ起こるかわからない災害に備えての訓練として参加者は真剣に取り組んでいました。アンケートでは「体験することでトリアージの実際がわかった」という声が聞かれ、意義のあるものであったと思います。



（担当看護師長 日吉 由紀子）

第25回てんかん専門職セミナー報告

平成22年2月19日（金）に当センターで第25回てんかん専門職セミナーが開催されました。毎年この時期に「成



人のてんかん」をテーマとして、医療・介護・福祉・教育の各分野の専門職（看護師・介護福祉士・介護支援員・生活支援員・精神保健福祉士・児童指導員・職業指導員等）の方々を対象に行っ

ています。

今年の内容は1.「てんかんとは？」2.「てんかんを持つ人の日常生活」3.「抗てんかん薬の基礎知識」の3つの講義と施設見学でした。例年のように県内広域の施設から受講希望があり、55名が参加されました。

講義は当センター医師、看護師、薬剤師が行い、参加

の皆様は熱心に聴講され、活発な質疑応答が交わされ、充実した一日となりました。

「てんかん」について知識を深めることができた、看護の視点が変わった、てんかんの発作中の対応がわかった、今後の生活支援に役立てたい等の意見がありました。

院内施設見学では実際の診療にかかわる質問も出て、理解を深めようとする熱意が伺われました。

このセミナーをお世話したスタッフの一員として、「てんかん」という疾患がより多くの人々に正しく理解され、その診断・治療・生活支援のお役に立てればと考えます。



（副薬剤科長 後藤 一純）



療育指導室紹介

主任保育士 藤森 潮美



バスが止まり、今日も多くの患者様が入り出している正面玄関。そんな賑やかな外來を抜け、中央廊下をずっとずっと奥に進んで一番奥にあるのが、『療育棟』今回ご紹介する私達の職場です。

療育指導室には、児童指導員4名、保育士8名の合計12名の職員がいます。このメンバーで、重症心身障害児・者病棟、ひまわり通園（B型通園事業）、てんかん病棟および外科病棟に入院中の乳幼児の患者様に関わらせていただいています。

☆重症心身障害部門☆

4つの病棟に約160人の患者様が入院していらっしゃいます。年齢も様々で、乳幼児の方から70代のご年配の方まで入院されていますが、重度の障害をお持ちの方々なので、病院が主な生活の場になります。そんな入院生活を有意義に送っていただけるように、各病棟ごとでの病棟活動では、楽しい入院生活を送れるような活動を看護師さんたちと一緒に計画し行っています。季節の行事や運動、またカラオケやビデオ鑑賞などいろいろなことを取り入れ、たくさんの患者様に楽しんでいただけるようにがんばっています。また、それぞれの患者様の状態により、発達援助の働きかけや情緒の安定、また、生活の質を高め生き甲斐を見つけるようなサポートを個別または集団の活動を通して行っています。これらの指導は、療育棟内の指導室を利用し行うこともあります。違う病棟の患者様同士が会って一緒に活動することもあり、友達の輪も広がっていきます。

☆ひまわり通園部門☆

在宅の重症心身障害児・者の方々が、毎朝9時30分に登園し毎日の健康チェックから一日が始まります。午後

3時30分までの時間を使って、日常生活指導や健康管理などを通し、生活リズムを整えメリハリのある生活を送っていただくお手伝いをしています。また、それぞれのご利用者様の状況に合わせた個別指導も取り入れ、ご利用者様のQOLをめざした援助を心がけております。

☆てんかん部門☆

てんかん病棟と外科病棟に入院されている乳幼児の患者様を対象に、発達検査と療育指導を行っています。

病気を持つお子様に対する発達への不安や、日常生活での悩みなどご家族の心配は多々あることと思います。私たちは、そのようなご心配を少しでもサポートできたいと考えています。そこで、発達検査の実施や、集団や個別の活動を行う中で、それぞれのお子様の様子を把握し、成長発達へとつなげられるように関わりを持つことを心がけています。また、長い入院生活を共に付き添われるご家族からの相談もお受けし、よりよい入院生活と患者様への関わりをサポートできるようにお母様たちとも話し合いの場を持つようにしています。さらに、入院生活により本来子どもたちが経験するであろういろいろな行事や遊びも、経験することができなくなることが多くあるため、少しでも子供らしい生活を送ることができるように、夏にはプール指導なども行っています。

当院では、療育指導室をご利用される患者様たちには、医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、さらにはソーシャルワーカー等多くのスタッフが関わっています。それぞれのスタッフとの連携を密にし、一人一人の患者様やご家族に合った支援ができるようにこれからがんばっていきたいと思います。



自己紹介

医師

高山 留美子

出身 ■ 北海道

診療分野 ■ てんかん、重症心身障害

抱負 ■

てんかんを勉強しにきました。患者様が地域で生活できるよう努力したいと思います。ご指導宜しく願います。

言語聴覚士

漆畑 暁子

平成21年8月より言語聴覚士として勤務しています。地元は静岡市ですが、しばらく離れていたもので、新鮮な気持ちで富士山を見ながら通勤しています。年齢を重ねて面の皮がずいぶん厚くなりましたが、実は毎日あたふたしながら仕事をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

防災訓練について

当院では毎年防災訓練を実施しています。2月25日に実施した防災訓練について紹介します。通常の外来入院患者様もみえますので療養に差し障りがないよう配慮して行います。参加する職員は医師、看護師はもちろんのこと、薬剤、検査、リハビリ、事務等すべての部門が参加する盛大なものです。地震発生数分後に病棟より出火したという想定で行いました。初期消火し、入院患者（職員が患者役）を担架で避難させるという一



般的なものではありますが、事前に出火場所や避難所を職員に通知することなく行いましたので緊張感あるものとなりました。

今回は起震車（地震を体感できる部屋の付いた車）もお借りし、多くの職員が震度7の揺れを体感しました。椅子に座っている状態で



揺れ始めるのですが、震度7ともなると椅子からお尻が浮くほどに揺れ、女性職員からは思わず悲鳴が出るほど衝撃的なものでした。またお借りした起震車は新型らしく、関東大震災を再現した揺れを体験できるものでした。揺れの時間や複雑な揺れ方等忠実に再現したものでリアルな怖さを実感できました。今後も万が一の事態に備えバリエーションを変えつつ訓練をしていきます。

（管理課）

宿泊施設について

当院には研修棟と呼んでいる宿泊施設があります。本来教育研修会等の参加者のために設置された施設ではありますが、遠方より来院される患者様も多く、患者様及びご家族の利便性を考慮し利用日数を限定（1ヶ月に付き7泊8日以内）の上ではありますがご利用していただいています。

（管理課）

設備等 各室バス・トイレ付、タオル・石けん・寝巻き・洗面用具はご持参ください。

宿泊料 1名 一泊 4,000円(税込)

宿泊施設の申し込み

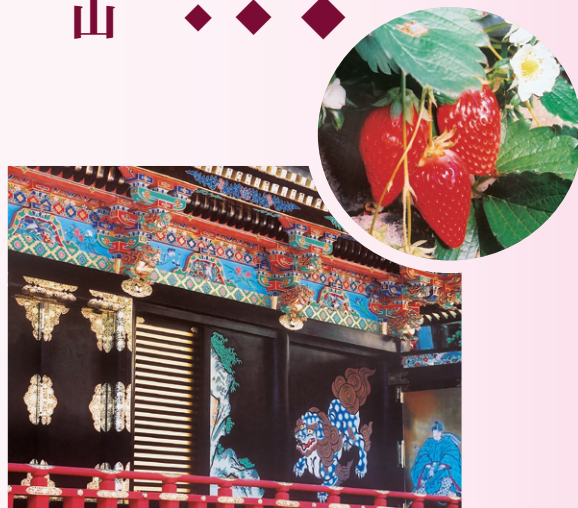
院内売店にて受付けております。電話での予約もできます。

営業日 毎日 9:00～17:00

◆ ◆ ◆ 久 能 山 ◆ ◆ ◆

徳川家康は、元和2年（1616年）4月17日に駿府城で亡くなり、その日のうちに久能山へ葬られ、さっそく総漆塗りの東照宮が建立されました。その東照宮は、50年に1度の漆の塗替えを終えたところで、創建当時の美しさが蘇っています。一方、麓の久能町には石垣イチゴのハウスが立ち並び、9月に植えられた苗は、12月には実を付けクリスマスケーキの材料として出荷されました。元旦からは一般の人も入園可能になり、5月末まで楽しめます。

（薬剤科 加藤）



てんかん外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室	中村	中村	臼井桂	山崎	臼井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今井		井上	今井	松田
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺田	寺田
第6診察室	芳村	山崎		芳村	馬場好
第7診察室		小出		最上	高山
第8診察室			高橋		
第9診察室	重松				重松

神経内科

※第2、4週は馬場(国)

	月	火	水	木	金
第10診察室	溝口	溝口	溝口		溝口、馬場国※
第11診察室	杉浦	小尾	山崎		小尾

特殊外来

転倒予防外来	随時	溝口、小尾
物忘れ外来	随時	溝口、小尾
遺伝相談	適宜	高橋、溝口、小尾

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@szec.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■

溝口 功一	寺田 清人	藤井 千穂子
佐藤 ひろ美	加藤 正紀	柘植 仁
児玉 和久	中島 賢二郎	堀 友輔
山本 恵	長田 英喜	

発行 ■ 平成 22 年 4 月 30 日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,625円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

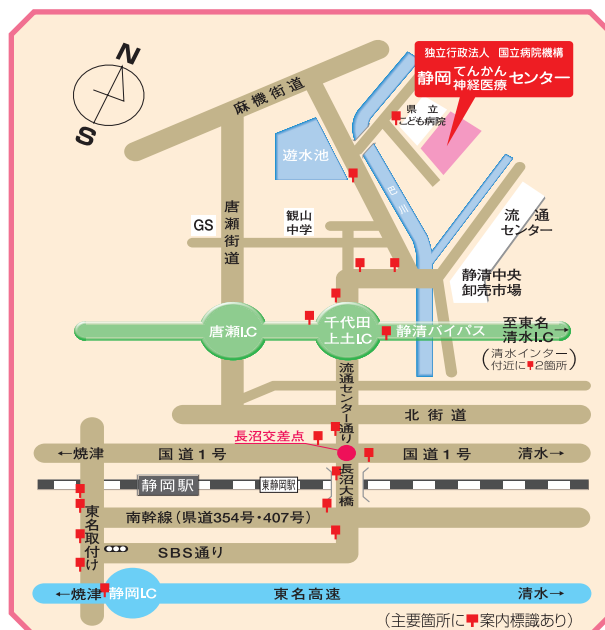
4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス

access

バスをご利用の場合	JR 静岡駅前、北口バスターミナル 2 番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・国立神経医療センター」行に乗車、終点の“国立神経医療センター”で下車。全所要時間は約 30 分。片道料金は大人 350 円、小児 180 円。
タクシーをご利用の場合	JR 静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約 20 分。料金は 2,200 円程度。
お車の場合	東京方面から 東名高速清水インターより、静岡バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約 20 分。
	名古屋方面から 東名高速静岡インターより、国道 1 号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約 30 分。



イベント情報

- 2010年てんかん学研修セミナー(2)【成人てんかん患者の診療に携わっている、あるいは携わる予定の医師】
2010年8月27日(金)～28日(土)
於 ◆ 当院管理棟3階講堂
- 第26回てんかん専門職セミナー【てんかんをもつ学齢期にかかわる専門職】
2010年8月6日(金)
於 ◆ 当院管理棟3階講堂

本

- アトラス てんかんの発作間欠時・発作時脳波を読む【診断と治療社、2007年】
てんかん症候群におけるあらゆる病態の脳波記録を網羅的に掲載し、それぞれについて詳細でわかりやすい脳波判読のしかたを解説しています。
- てんかん症候群：乳幼時・小児・青年期のてんかん学【中山書店、2007年】
世界で愛読されているてんかんの教科書です。典型的な発作 DVD が付属しています。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- ① てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- ② ホームページによる情報提供
- ③ てんかん協会との連携
- ④ 医療などの相談(予定)